

I 研究の概要

<研究テーマ>

子どもの声から不登校を考える II
～子どもの多様な学びに寄り添う支援のあい方～

1 「不登校」にかかわるこれまでの動向

研究報告書 p 4 8

○昭和30年代半ば

学校恐怖症

○昭和50年代～60年代まで

登校拒否

平成4年9月文部科学省初等中等教育局長

「登校拒否問題についての対応について」



・不登校はどの子にも起こりうるという視点を提示

○平成に入り 「不登校」という呼称が使われ始める

★平成28年「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会確保に関する法律」制定



・不登校を問題行動と判断してはならない

・児童生徒の個々の状況に応じた学びを保障する支援

○令和時代 「(自分の意思で)学校に行かない子」

※不登校の要因が複雑化し、適当な言葉が見つかっていない。

令和4年度 川崎市児童生徒の問題行動・不登校等の調査結果

不登校の要因

令和5年度研究報告書より

		学校に係る状況								家庭			本人		左記に該当なし
		いじめ	友人関係	教職員との関係	学業の不振	進路に係る不安	クラブ・部活	学校のきまり	入学・転編入学	生活環境の変化	親子の関わり方	家庭内の不和	・非行 生活の乱れ・遊び	無気力・不安	
小学校	①	0	69	19	57	1	1	14	36	27	170	10	105	619	16
	②	0	48	28	106	3	0	22	9	16	151	6	113	123	
中学校	①	0	122	13	91	17	16	48	55	37	47	12	122	978	14
	②	0	77	8	123	8	11	30	24	18	62	14	141	159	

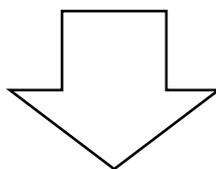
①主たるもの ②主たるもの以外

川崎市教育委員会 令和5年10月16日

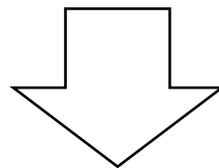
小学生（上位7項目）		
先生のこと	（先生と合わなかった 先生が怖かった 体罰があったなど）	29.7%
身体の不調	（学校に行こうとするとおなかが痛くなったことなど）	26.5%
生活リズムの乱れ	（朝起きられなかったなど）	25.7%
きっかけが何か自分でもよくわからない		25.5%
友達のこと 1	（いやがらせやいじめがあった）	25.2%
勉強がわからない	（授業がおもしろくない 成績がよくなかったなど）	22.0%
友達のこと	（1以外）	21.7%
中学生（上位7項目）		
身体の不調	（学校に行こうとするとおなかが痛くなったことなど）	32.6%
勉強がわからない	（授業がおもしろくなかった 成績がよくなかったなど）	27.6%
先生のこと	（先生と合わなかった 先生が怖かった 体罰があったなど）	27.5%
友達のこと	（1以外）	25.6%
友達のこと 1	（いやがらせやいじめがあった）	25.5%
生活リズムの乱れ	（朝起きられなかったなど）	25.5%
きっかけが何か自分でもよくわからない		22.9%

2 研究テーマについて

文部科学省が行っている「児童生徒の問題行動調査」と「実態調査」の内容の乖離



大人が考える問題点ばかりで、
子どもの姿が見えていない。



子どもの声から不登校を考えよう！！

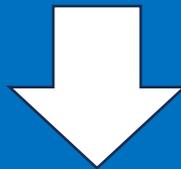
令和6年度 サポートセンター調査
＜「学校について」の子どもアンケート＞ 【73名複数回答】



いじめ 現在不登校 視線が怖い 一応週1で行っているが全然勉強できてない 宿題 もやしたい

**子どもの声から不登校を考える
～子どもの成長を応援する関わりをするために～**

**子どもの声から不登校を考える II
～子どもの成長を応援する関わりをするために～**



～子どもの多様な学びに寄り添う支援のあい方～

3 令和7年度の取り組み

(1) 子どもアンケート、保護者アンケートの実施

(2) 実践事例の収集と検討

(3) スタッフアンケートの実施と研修

(4) 「あなたの声を聞かせてねポスト」の設置

Ⅱ 子どもの声と保護者の思い

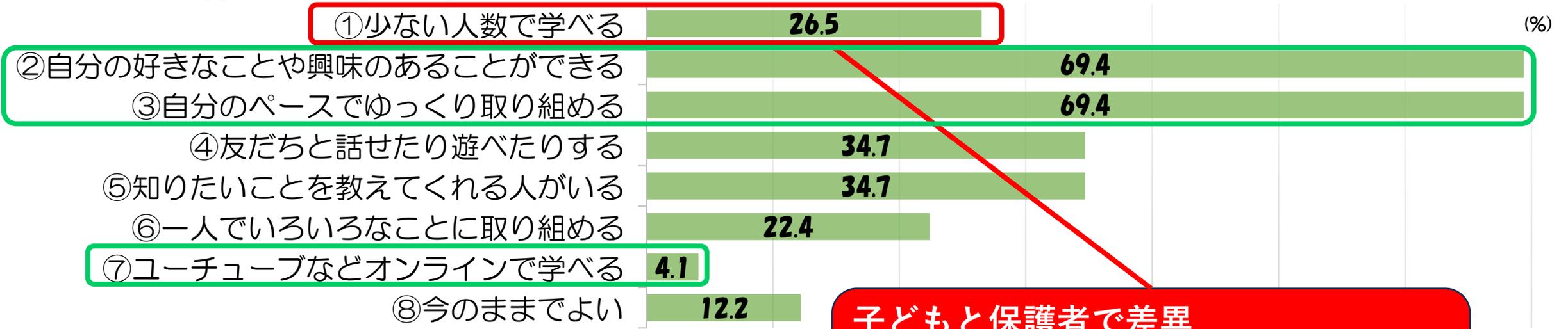
～アンケート調査結果から～

1 アンケートについて

- ◎ 自立にむけて子どもや保護者がどのような思いや願いを持っているかに着目
- ◎ 子どもと保護者に同様のアンケートを行うことで、両者に共通する部分と違いがみられる部分を明らかにする

(1) 学びの場について

～子ども～ <行きたいと思える学びの場>



子どもと保護者で差異
少ない人数で学べる

～保護者～ <お子さんが行きたいと思うだろう学びの場>



子どもの結果

- ・自分の好きなことや興味のあることができる ⇒ 多い
- ・自分のペースでゆっくり取り組める ⇒ 多い
- ・ユーチューブなどオンラインで学べる ⇒ 少ない

(4) あなた自身について「これから」

～子ども～ <あなた自身～なりたい自分>

(%)

①もっと勉強ができるようになりたい

65.3

②友だち

子どもと保護者で差異

もっと勉強ができるようになりたい・なってほしい

④もっと

⑤コミュニケーションがうまくなりたい

59.2

～保護者～ <なってほしいお子さん>

(%)

①もっと勉強ができるようになってほしい

34.9

②友だち

子どもと保護者で共通

コミュニケーションがうまくなりたい・なってほしい

④もっと

⑤コミュニケーションがうまくなってほしい

65.1

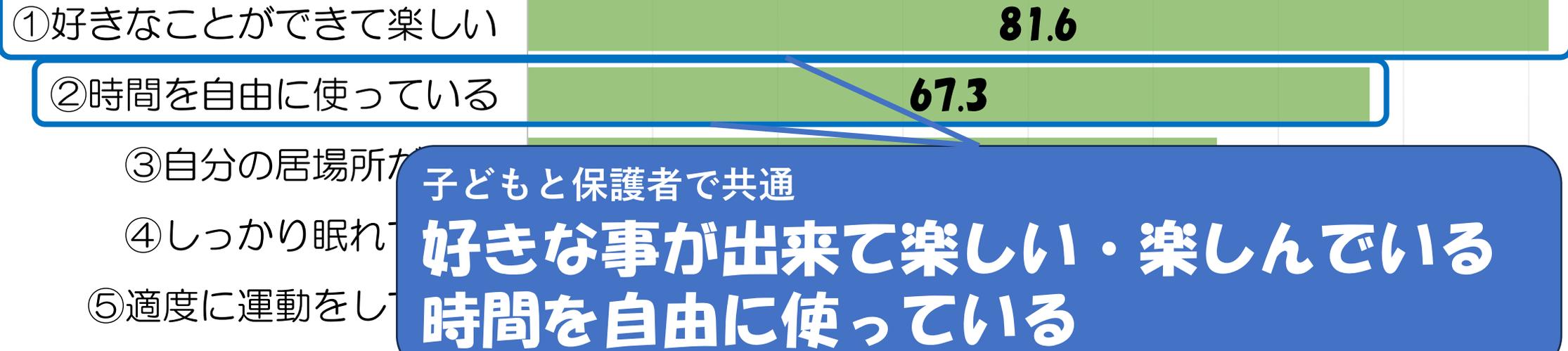
⑥その他

9.3

(5) あなたの生活について 「現在」

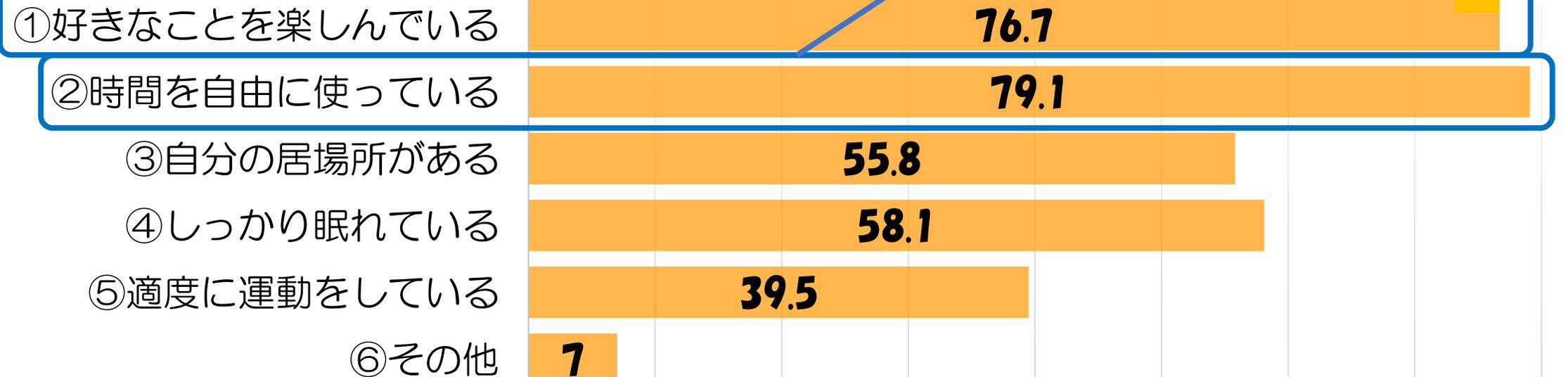
～子ども～ <あなたの生活～今>

(%)



～保護者～ <お子さんの生活～今>

(%)

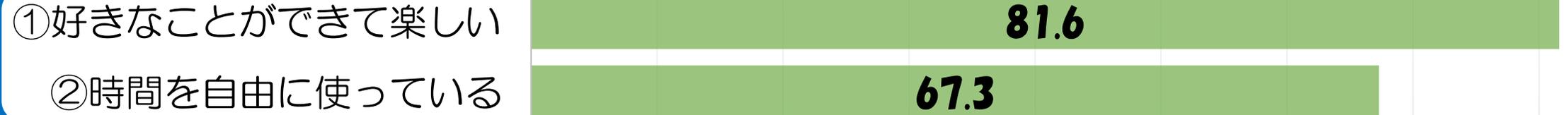


(5) あなたの生活について 「現在」と「これから」

～子ども～

＜あなたの生活～今＞

(%)



③自分の居場所がある

④しっかり眠れている

⑤適度に運動をしている

子どもと保護者で共通

**好きな事が出来て楽しい・楽しんでいる
時間を自由に使っている**

～子ども～

＜あなたの生活～これから＞



③夢中になれるものがある



生活リズムを整えたい

～子ども～

現在好きなことができて楽しく、時間を自由に使っている子（32人）がこれからどのような生活をしたいか



子どもと保護者で差異
生活リズムを整えたい

～保護者～

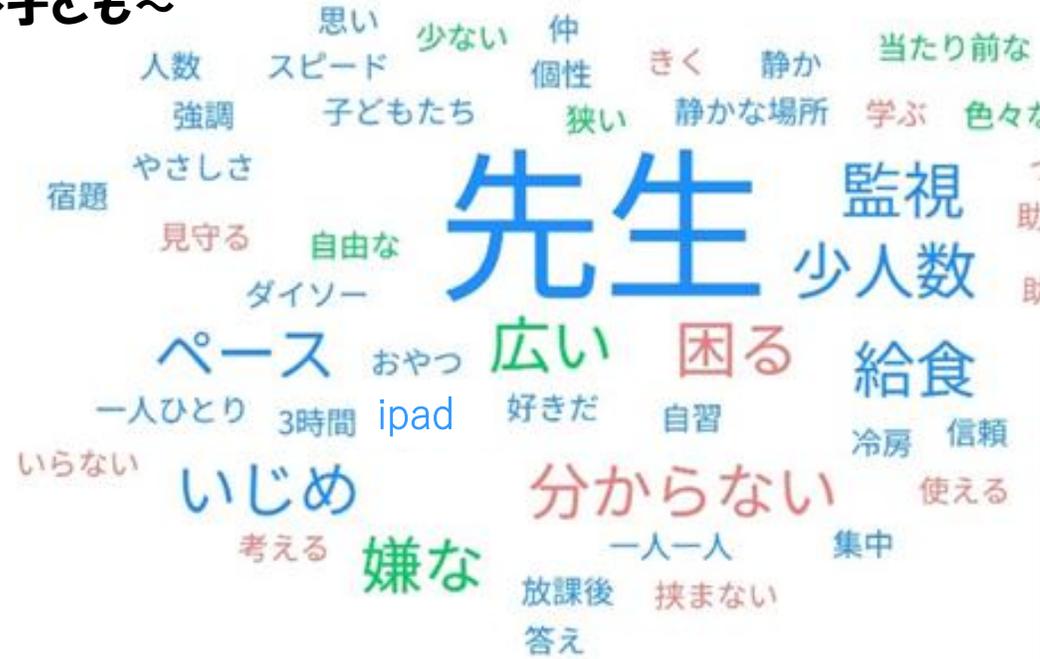
現在お子さんが好きなことを楽しみ、時間を自由に使っていると思っている保護者（26人）が、お子さんにこれからどのような生活を送ってほしいか



子どもと保護者で差異
いろいろな人と交流してほしい

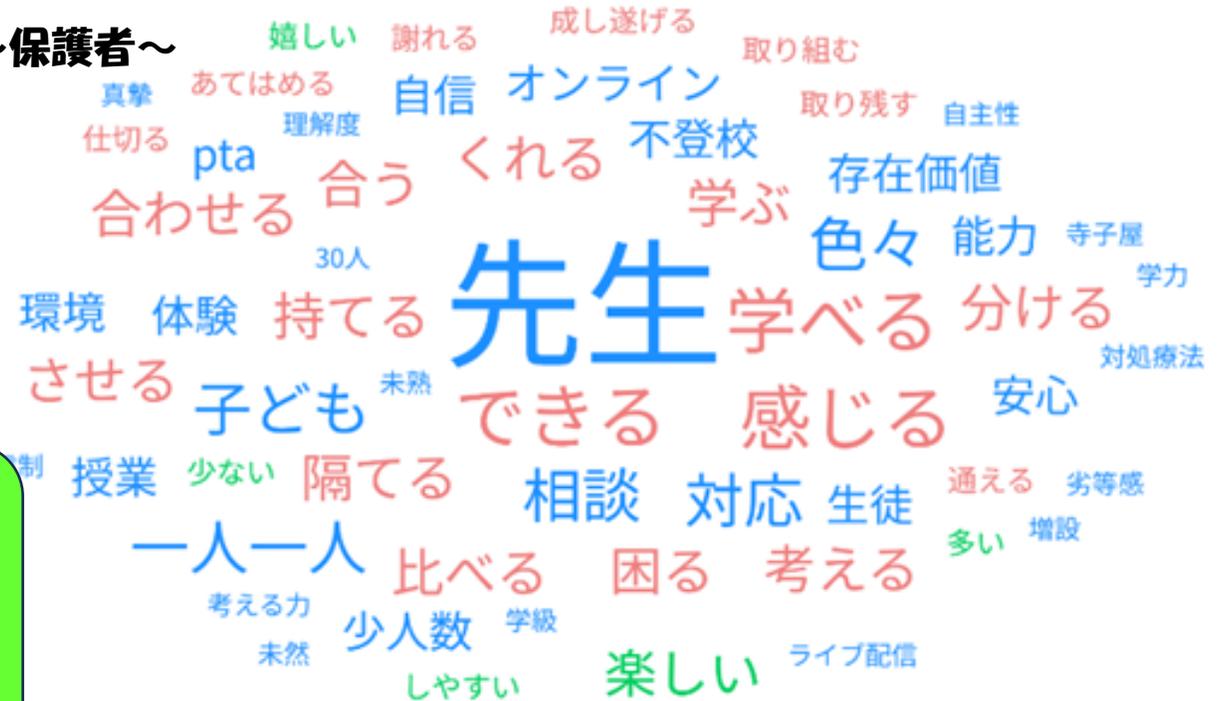
(6) 子ども・保護者が求める学校とは

～子ども～



「真摯に子どもと向き合ってくれる先生」
 「人生の先輩としてアドバイスをくれる先生」

～保護者～

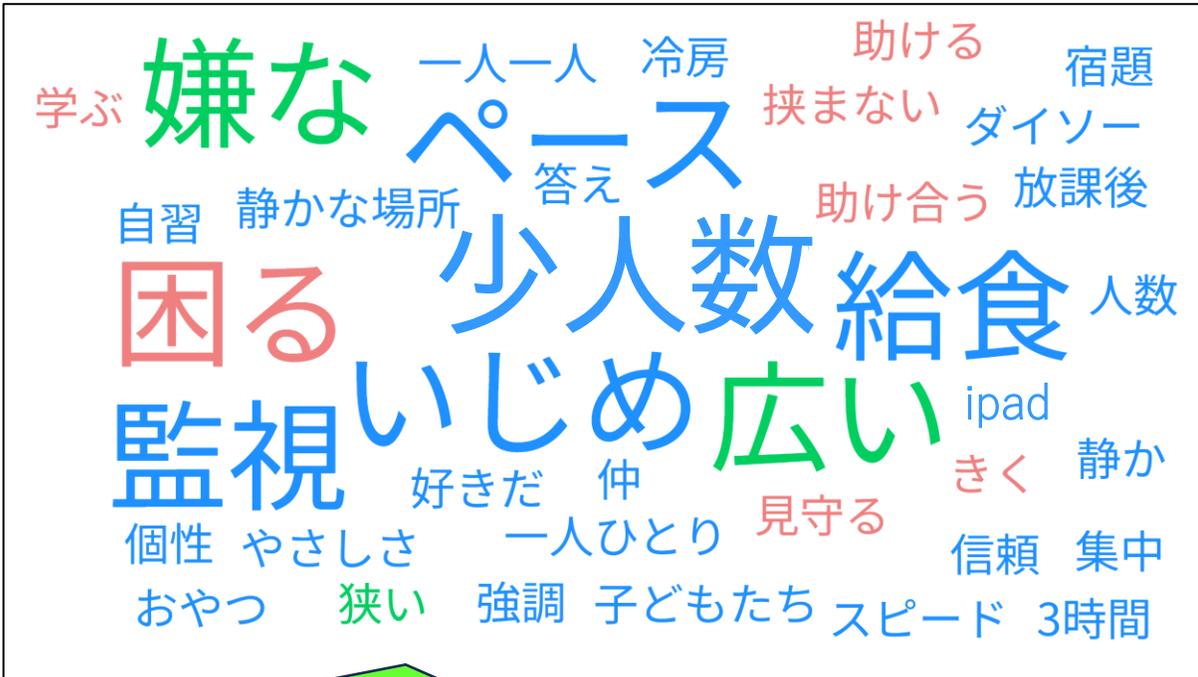


「先生がいつでも助けてくれる」
 「いろいろ話せる先生がいる」

(6) 子ども・保護者が求める学校とは

アンケートの回答から「先生」を除いた文章をテキストマイニングにした場合

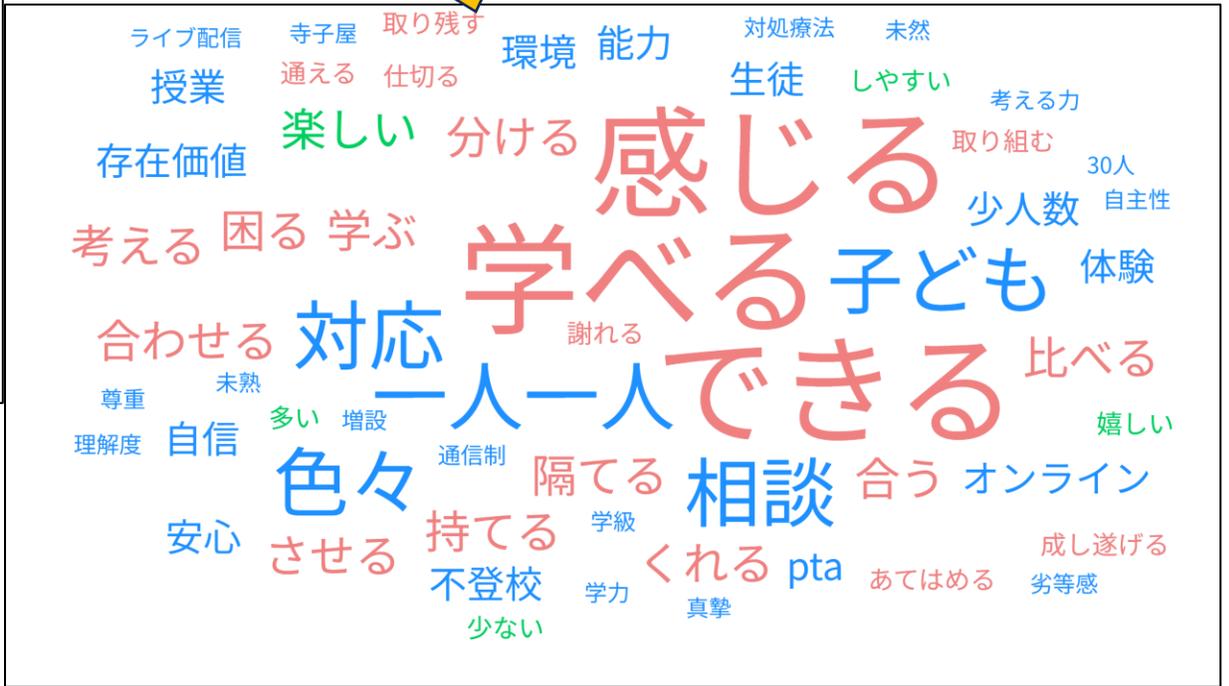
～子ども～



少ない人数で、いじめや嫌なことがなく、安心した環境のもと自分のペースでいられる

一人一人に応じて、様々なことを学んだり、感じたりすることができる

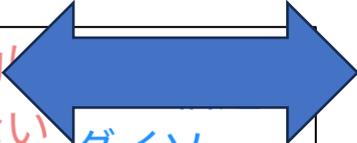
～保護者～



子どもが求める学校

～子ども～

学ぶ 嫌な ペース 一人一人 冷房 助 挟まない ダイソー
自習 静かな場所 答え 助け合う 放課後
困る 少人数 給食 人数
監視 いじめ 広い ipad きく 静か
個性 やさしさ 一人ひとり 見守る 信頼 集中
おやつ 狭い 強調 子どもたち スピード 3時間



アンケート：子どもが行きたいと思える学びの場

「少ない人数で学べる」を
選んだ子ども ⇒ 少ない

子どもが求める学校

少人数

アンケート：子どもが行きたいと思える学びの場

「少ない人数で学べる」を
選んだ子ども ⇒ 少ない

昨年の学校について子どものアンケート

教室がザワザワして落ち着かない

子どもが求める学校

アンケート：子どもが行きたいと思える学びの場

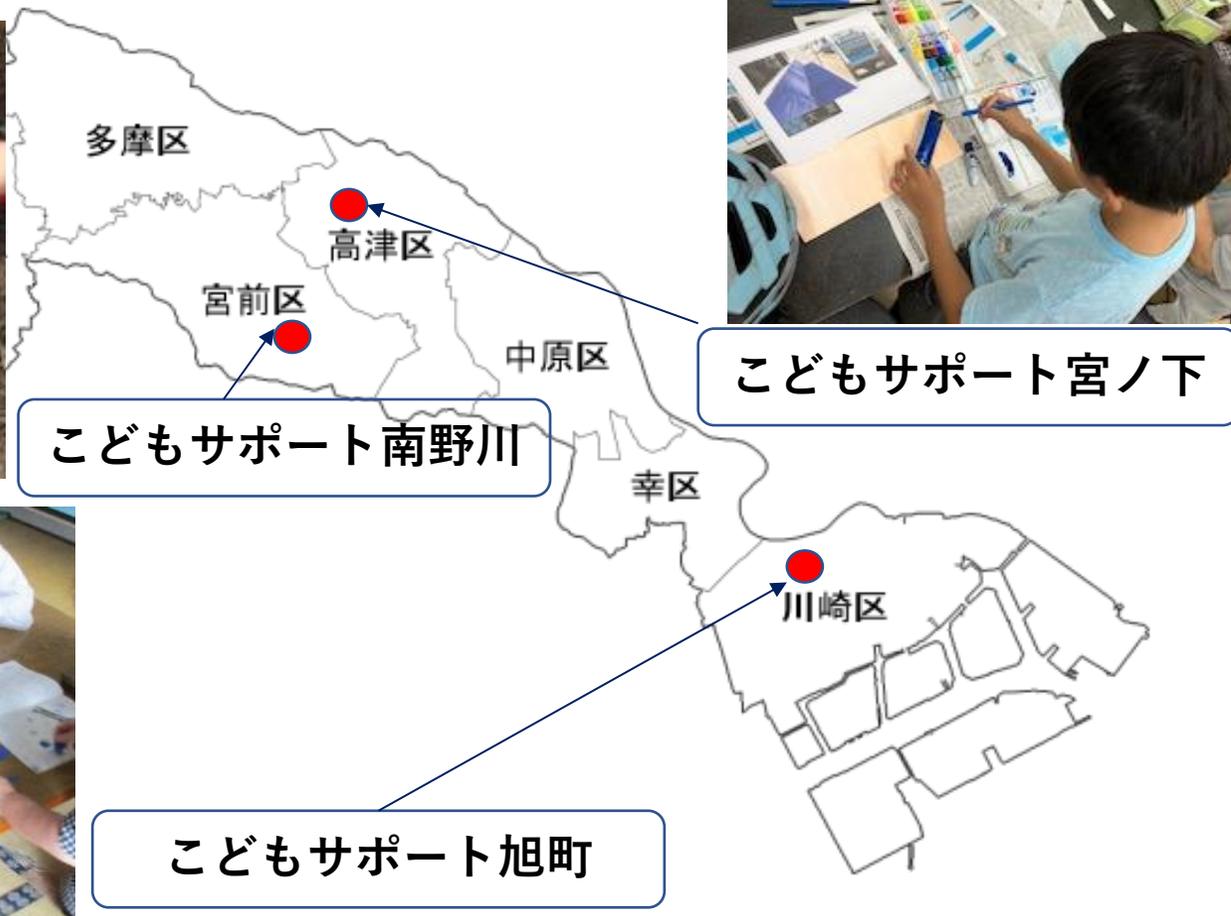
少人数ひとりの子どもの声を受け止め

多様な学びに寄り添う支援のあり方を探る

昨年の学校について子どものアンケート

教室がザワザワして落ち着かない

Ⅲ 事例報告



2026年2月14日

3つのこどもサポートでつくる 多様な学び



異なった形態の支援の提供

- 宮ノ下 一人ひとりの学びに寄り添う
- 南野川 様々な体験ができる
- 旭町 安心して過ごせる場所

(一人ひとりの学びに寄り添う)

研究報告書P20-21

こどもサポート宮ノ下

事例1 好きなものづくりから学びを広げるAさん

鉄道が好き！電車の車両をつくりたい。
本物の写真の通りにつくっていくよ。



じゃあ、鉄道の駅名や地名の漢字から始めてみようか。

1対1の学習で、子どもの興味・関心から学びを広げていく

(様々な体験ができる)

研究報告書P28-29

こどもサポート南野川

事例2 畑の作業に積極的に取り組むEさん

みんなでUNOやろうよ。先生も一緒にやりませんか。



誰に対しても自然に接しているね。

畑の作業が好きなので、何か手伝うことあればいつでも言ってください。



ありがとう！
いやー、助かったよ。

南野川の特徴を生かし、活動することで、主体的に行動する

(安心して過ごせる場所)

こどもサポート旭町

研究報告書P34-35

事例2 心を休め、元気をとりもどすHさん

次は、トランプ(スピード)をやろう。
すぐに、やろう!(小3)



〇時になるまで
待ってね。
それまで自分のや
りたいことをやっ
ていてください。



自分の好きなことができることで、元気になって学校生活に戻っていく

継続して子どもたちの声を聞く

卒業生から

高校生から



自分に合った進度で
自分で納得して



3つの「こどもサポート」の特徴

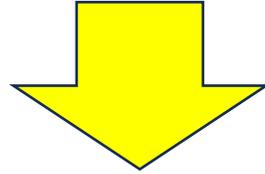
宮ノ下 スタッフと1対1で一人一人に合う学習支援を実施
子どもの不安に寄り添い、学びを支える
安心して学ぶ場でエネルギーや自信を蓄える

南野川 場の特徴を生かした様々な活動の体験
主体性や自ら考える力を育む
スタッフや子ども同士の関わりの場

旭町 複数のスタッフと関わり、安心して過ごせる場の提供
自分で決めて行動する力を育む
次の一歩を踏み出す元気を養う

3つの「こどもサポート」の支援

子どもの声を聞き、その思いを受けとめる姿勢



研究報告書
P38～41

3つのサポートのスタッフが共有

安心できる場
自分に合う学び
自分の居場所

「学びの多様化学校」に求められる役割

IV 令和6・7年度の研究を振り返って

1 研究の成果と今後の課題

研究報告書 P 4 3

わかってきたこと①

○アンケートや聞き取り調査から

- 子どもたちは、勉強が分かるようになりたいという切実な願いを持っている。
- 自分の好きなことや興味のあることを学べる場を求めている。
- 勉強を自分のペースで取り組みたいと考えている。
- 子どもたちは生活のリズムを整えたいと考えている。

○子どもの考える「生きる力」

(面談から)

国語と算数の勉強がしたい。それが、私が生きていくために必要な力だ。

(アンケートから)

コミュニケーション能力をつけたいと考えている。

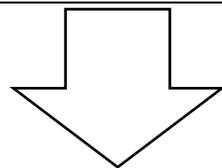
○大人が考える「生きる力」

いろいろな人と交流して、「人とかかわる力」をつけてほしい。それが、子どもが自立して生きていくために必要な力だと思う。

わかってきたこと③

- 子どもや保護者は、オンライン学習を求めている。
 - ・人と関わり、自分のペースで、自分に必要な力を高めることを望んでいる。

○子どもたちは、自立に向けた多様な支援を求めている。

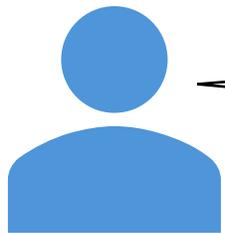


- 学校においては、先生が重要な役割を果たしている。
- サポートセンターの運営する3つの「こどもサポート」の場は、子どもたちの多様な学びを支えている。
 - ⇒「学びの多様化学校」の役割をになっている。

○子どもの声を聞くことの難しさ

- 保護者が「思ったことが言えている」と考えている割合
⇒ 48.8%
- 子ども自身が「思ったことが言えている」と考えている割合
⇒ 32.5%

○スタッフの悩み<事例① p 38>



「子どもの声を聞き…」とありますが、子どもの声を聞けたらどんなにいいだろうと思っていました。

○「子どもの声を聞かせてねポスト」 が活用できるかどうか？

あなたの声を聞かせてね

○「ちょっと、聞いてほしい」と思うことを何でも聞かせてね。
「よかったこと」や「うれしかったこと」、
「こまっていること」、「いいこと」など

★書いたことのみみつは守られます。



★下の表に書いて「聞かせてね」ポストに入れるか、上のQRコードを読みとって、記入して送ってください。

※よかったら、こどもサポートの場所をおしえてください。
〔 宮ノ下 旭町 南野川 〕

※へんじがほしい人は、名前を書いてください。

2026年2月14日



今後の課題 ②

- 「子どもの声」に應えるために
 - ・学校や他のフリースペースとの連携が必要
 - ・親の会との連携が必要

- 学習指導要領の改訂には時間がかかる。
 - ・特例的な教育課程の編成
 - ・子どもに寄り添った柔軟なカリキュラム編成

- 社会全体で、一人ひとりの子どもの個性に寄り添った支援の意識の醸成が必要